

神奈川県内科医学会とは

本会は 1967 年 2 月 19 日に創設され、神奈川県医師会内の組織である神奈川医学会の最大の分科会です。県内の内科診療を行う医師が、全人的かつ包括的地域医療を目指し、相互連携・連帯を深め、神奈川県の保険・医療・介護のレベル向上を目指して活動する学術団体です。また、全国組織である日本臨床内科医会にも参加し、活動しています。

所属地区・都市内科医会

第1地区 横浜内科学会

第4地区 藤沢市内科医会

第2地区 川崎市内科医会

茅ヶ崎医師会内科医会

第3地区 横須賀・三浦内科医会

平塚市医師会内科部会

逗葉内科医会

中郡医師会内科医会

鎌倉市医師会内科医会

小田原内科医会

足柄上内科医会

秦野伊勢原医師会内科医会

第5地区 相模原市内科医会

大和市医師会内科医会

座間綾瀬医師会内科医会

海老名内科医会

厚木内科医会

入会方法・会員種別

- 県内科医学会は都市内科医会と同時にご入会いただいているため、県への入会手続きは、都市から入会届けをご提出いただく形になります。県内科医学会事務局(別記参照)にご連絡下さい。
- 個人会員、病院会員、大学会員(横浜市大、北里大、東海大、聖マリアンナ医大)、協賛会員

入会申込書

神奈川県内科医学会事務局に所定の入会申込書がありますので、ご希望の方に送付いたします。または下記のホームページよりダウンロードできます。

<http://kanagawamed.org/>

神奈川県内科医学会

検索



年会費

個人会員		8,000円
施設会員	病院	30,000円
	大学Ⅰ	80,000円
	大学Ⅱ	50,000円
協賛会員		100,000円

学術活動

基
本
集
会
会

定時総会・学術講演会 (5月)
臨床医学研修講座 (9月~11月)
新春学術講演会 (1月)
集談会 (2月~3月)

知の羅針盤

薬剤やデバイスに関する情報を実地医療の視点から本音で語る学術講演会プロジェクト「知の羅針盤」を2019年春に始めました。製薬企業による発表内容の事前チェックやプロモーションコードの適応などの介入を排し、日常診療で使える「偽りのない情報」の共有を目指します。プロジェクトの発展のため、多くの先生方のご参加をお願いします。

先達に聞く!

内科診療における「Science」の礎となる「Art」と「Heart」を育むための講演会です。当会の優秀かつ人間味のある諸先輩方に、生い立ちや医師を志すに至った人生の契機、診療や研究における貴重な経験などを伺い、会員の今後の診療や未来の医療に活かしていくための心の糧となる講演会です。

内科診療の幅を広げ・厚みを増す会

内科医の日常診療では、専門領域だけでなく内科全般、ひいては他科の領域に及ぶ疾患に遭遇します。普段から幅広い診療科の疾患の知識を学んでおくことで、専門分野以外の疾患に対しても適切な対応を取ることが出来ると考えます。本講演企画では、他科のエキスパートから内科医向けにわかりやすくお話しして戴きます。

一語一会大賞・当意即妙大賞

日常診療の中で出会った心の琴線に触れる患者さんやご家族の言葉、患者さんとのウイットに富んだユーモア溢れる遣り取り、いずれもご経験があると思います。これらの言葉や会話を共有することによって会員の交流や友好を深めたいと考え、立ち上げた企画です。会員の皆様の多数のご応募をお待ちしております。

超高齢社会の内科診療

わが国は未曾有の少子超高齢社会を迎え、今後はさらに加速します。臨床内科医にとって超高齢者の診療は不可欠ですが、多くの課題や問題点が山積しています。本シリーズ講演会は、超高齢者に対する内科診療をテーマに、問題の提起や対策の討論をおこなうことを目的に立ち上げました。会員全員で話し合い考えていくましょう。



神奈川県
内科医学会

<http://kanagawamed.org/>

2025年10月

学会事務局

〒 231-0037 横浜市中区富士見町 3-1 神奈川県総合医療会館 3F
神奈川県医師会内 神奈川県内科医学会
TEL 045-241-7000 Fax 045-241-1464

神奈川県内科医学会 会長あいさつ



2025年5月に4期目の会長に再任されました金森晃です。伝統ある本医学会の理念と実践を継承しつつ、新しい企画や事業を立案して進取の気概をもって幅広く活動を進めていく所存です。本医学会の目的は「会員のため、患者さんのため、市民の皆さんのために」活動することです。目的の達成と円滑な運営のためには会員の皆様のご協力が不可欠です。引き続きのご支援、ご尽力を心よりお願い申し上げます。

活動方針

- 1) 良き伝統の維持と新規事業の発案・企画・実行・推進
- 2) 超高齢社会への対応と対策
- 3) 学術委員会活動の一層の活性化と連携強化
- 4) 会員の知識増幅
- 5) 市民への健康啓発
- 6) 年代や性を超えた学術活動への支援
- 7) 心の修練と会員の親睦

組織体制

会長

金森 晃

副会長

小野 容明	武田 浩
岩澤 孝昌	高橋 敦
國島 友之	青山 直善

部会長

永井 一毅 (総務企画部会)
田口 博基 (財務部会)
岡 正直 (情報広報部会)
松葉 育郎 (学術部会)

学術部会事業委員会

ご興味のある委員会がございましたら、裏面の学会事務局までご連絡ください。

●リウマチ・膠原病対策委員会 (山田 秀裕)

日進月歩のリウマチ・膠原病領域では、多数の新規抗リウマチ薬や免疫抑制薬の臨床導入に加え、ステロイドの早期離脱も新たな課題です。これらの最新研究成果を会員の皆様と共有し、難病に苦しむすべての患者さんが最先端医療の恩恵を受けられるよう活動します。また多臓器に涉る全身性疾患のため、他領域の専門医との連携が重要です。神奈川県内科医学会の他の事業委員会の先生方とも連携して、合同の講演会等を企画・推進します。

□禁煙推進委員会 (長谷 章)

生活習慣病でタバコによる犠牲者は高血圧症による犠牲者を上回っています。神奈川県内科医学会では長年にわたりタバコ対策に目を向け活動を行っています。禁煙治療に係わるテキストの作成(①「今日からできるミニマム禁煙医療」②「禁煙の動機づけ面接」③禁煙の認知行動療法) (作成中) や2020東京オリンピックに向けて公共の屋内空間の完全禁煙化に向けての社会的な活動を続けています。

□医薬品評価検討委員会 (湯浅 章平)

医薬品評価検討委員会は、ジェネリック医薬品を中心に薬に関する情報提供を進める活動を行っています。ご存じのように、ジェネリック医薬品は国が推奨しており、その使用目標を現在の60%から80%へ引き上げることが明示されています。このような状況下にあって、会員の先生方に正しい情報を伝えるため、会員へのアンケート調査(内科)のほか、他の診療科へのアンケート調査も実施しています。

□在宅医療委員会 (磯崎 哲男)

在宅医療委員会は、在宅医療の担い手を増やす事を目標としています。そのため、在宅医療を推進しようと考えている医師や多職種の皆様と、問題点の検討や情報を共有することが大切であると考えています。神奈川県内科医学会は学術的に知見を深めていく使命をもっていますが、在宅医療の領域は社会的役割が大きく、神奈川県医師会等とも連携しながら歩んで行きたいと思います。

□健康長寿社会を目指す委員会 (高見沢 重隆)

超高齢社会進行の真只中で、健康長寿を目指す、生涯現役を目指す、全ゆる活動の紹介、提言活動を通して相互理解を会内外に広めていくため、(1)広く各界の有意の方々との交流、講演等を行う(学術、宗教、社会分野等)、(2)市民等への啓発活動を独自に又会内委員会との連携で開催する、(3)保健、医療・介護(在宅医療)、福祉、看取り等についての講演、アンケート、提言、といった活動を展開しています。

□メディカルコミュニケーション委員会 (松澤 陽子)

良質な医療の実践には、客観的評価に基づく医学(Science)だけでなく、患者さん個々の生活背景や価値観、希望などを十分理解し治療過程に反映させていく技(Art)が必須です。当委員会では各種の講演会やワークショップを通じて、医師と患者さんや家族、あるいは医療者相互のコミュニケーションについて深く考えたり、人間関係を円滑にするスキルを身につけたりする機会を提供します。

●糖尿病対策委員会 (松葉 育郎)

糖尿病患者さんの糖尿病合併症を少なくすることを目標にしています。3大合併症に対する対策班を設け、糖尿病神経障害対策班、糖尿病腎症対策班、また、眼科医会との合同協議会を中心とした活動をする一方、自主研究を立ち上げ、DPP4阻害薬、SGLT2阻害薬をどのように有効に使用していくか検討しています。また、毎年11月の世界(神奈川)糖尿病Dayに共催し、市民向けの講演会をはじめ、マリンタワーのブルーライトアップも行っています。

●肝・消化器疾患対策委員会 (岡 正直)

肝疾患による肝硬変・肝癌をなくすため一般市民や非専門医を対象に啓発活動を行っています。(1)肝炎対策特別講演会を開催、(2)肝臓病を考える病診連携の会を県内5地区持ち回りで年2回開催、(3)肝疾患管理シートや市民公開講座による肝臓病患者の掘りおこし活動、(4)書籍「これだけは知っておきたい肝臓病の知識」を発刊し最新知識を分かりやすく解説、(5)肝臓以外の胃腸を含む消化器疾患全般をカバーする講演会の企画・開催を進めます。

●認知症対策委員会 (大木 教久)

認知症の早期診断、最新治療、予防、病態、介護、多職種連携、BPSDの対応、成年後見制度など、認知症に関するあらゆるテーマにチャレンジしています。主な事業は「認知症を考える神奈川の会」という講演会の企画・開催、認知症クリニック・カンファレンスの実施、臨床研究などを行っています。著名な先生方や地域で活躍されている方々とも交流する機会が多く、臨床医にとって幅広い知識を習得できるよう活動しています。

●高血圧・腎疾患対策委員会 (小林 一雄)

高血圧・腎疾患対策委員会では、県下の高血圧患者の治療状況を把握するため2008年から高血圧臨床実態断面調査を続けています。また、(1)尿試験紙による簡易測定法を用いた通院高血圧症患者の塩分摂取量の実態調査、(2)慢性腎臓病合併症例におけるSGLT2阻害薬投与による影響についての後ろ向き調査研究、の二つの調査研究を中心に有益な情報が発信出来るよう活動しています。

●呼吸器疾患対策委員会 (西川 正憲)

現代社会では、咳や痰は最もありふれた徴候です。喘息、COPD、気管支拡張症、間質性肺炎、肺癌はコモンディジーズであり、実地医家として適切な対応が求められています。会員諸兄との共感と発見を重視する「ぜんそく症状ゼロ・プロジェクト」、「神奈川県呼吸器疾患フォーラム」、医療スタッフとのチーム医療を実践する「吸入療法支援ステップアップセミナー」などを通じて、自信を持った呼吸器診療が実践できるようになります。

●心臓血管病対策委員会 (國島 友之)

超高齢社会を迎え、循環器疾患の治療・管理は健康寿命延伸に必要不可欠となっています。循環器疾患治療は日進月歩であり、常に実地医科の啓発が望ましいです。行政への協力、臨床試験への参加、研究テーマへの参加・協力(心筋梗塞および救急治療に関する神奈川県循環器救急レジストリー、心房細動・閉塞性動脈硬化症・肺高血圧症・心不全のアンケート調査)等新たな知見の創造と共に年2回の講演会を通じて質の高い医療を患者様に提供出来る様に活動しています。